

(第75回) プロジェクト・制度評価分科会の評価結果について



NIO.	2-9					
事業名	国際研究開発/コファンド事業 (終了時評価) 国際部					
委員構成、ポートフォリオ		委員名		NEDO委員歴		
				前身 事業	事前 評価	中間 評価
<p>本事業は、欧米先進国を中心とする海外の技術開発支援機関等とともに、コファンド形式等により、我が国企業技術を現地の実情に合わせ、相手国企業等との協働による研究開発・実証を行い、我が国の高い技術力の海外市場への展開の推進、経済成長促進、及び産業競争力強化の早期実現を図ることを目的とする。評価の連続性を考慮し中間評価を担当された委員を、加えて、優れた技術を保有し、国際共同研究を志向する日本企業の発掘・支援及び事業化の観点より、新たにベンチャー・スタートアップへの投資や支援に長年従事されている委員を選定。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分科会長は、科学技術イノベーションシステムを専門とし、研究開発評価についても幅広く十分な知見を有する。各委員からは以下観点から事業を評価いただく。 研究開発投資等に関する生産性/効率性等、技術経営視点からの分析 対象企業の発掘・アプローチの観点から、中小企業・ベンチャー等への周知・支援 事業化に向けた事業の進展度合いとマネジメントのあり方 国際共同研究についての経験 		角南篤分科会長 政策研究大学院大学 学長特命補佐/客員教授			○	
		後藤美香分科会長代理 東京工業大学 環境・社会理工学院 教授				
		加藤晴洋委員 N E Cキャピタルソリューション株式会社 イノベティブ・ベンチャーファンド パートナー				
		櫻井政考委員 T E A Mアライアンス株式会社 代表取締役社長				
		猿渡俊介委員 大阪大学大学院 情報科学研究科 准教授			○	
評価コメント						
肯定的意見			今後への提言			
<ul style="list-style-type: none"> アウトカム達成に向けて、助成期間終了後のフォローアップも効果的に実施されていた。 TRLというユニバーサルな指標を用いることで個別事業の事業化に向けた進捗度合いを可視化した試みは高く評価でき、事業化に向かってTRLが進んでいることに加え、すでに販売されて利益を出している個別事業もあることを併せて考えると、アウトカム目標に向かって順調に進んでいる。 日本企業と相手国企業間の連携に関する各種の協業関係の構築や実施上の問題に関して、相手国ファンディング機関との調整が適切に行われており、対象国拡大、EUREKA活用など、毎年工夫しながら本事業の推進のためにきめ細やかな対応がなされていた。 本事業でのノウハウは後継事業の制度設計にも活かされており、発展的効果もあった。注) 後継事業：ディープレックススタートアップ支援基金事業の国際共同研究開発特化型支援 			<ul style="list-style-type: none"> 国際標準の獲得に向けた取り組みや市場のニーズの掘り起こしなど、ハンズオンで伴走していくためのリソースの確保に向けたさらなる工夫が期待される。 後継事業では、今後の国際情勢や経済環境など見通しの難しい状況であることから、アウトカム目標を常に現実的なところに適宜設定し直し、注視していくことが望まれる。 アウトカム目標への到達を推進していくためには、採択時の事業性の評価において、市場性の評価をより強化することが望まれ、さらに、アウトカム目標には採択件数だけでなく事業化件数も設定し、事業終了後もモニタリングしていくことが期待される。 後継事業においては、新規市場の創出をさらに幅広く強化・展開していく上で、今回の事業ではカバーされていない地域の高い技術力をもった企業へのアプローチが期待される。 			